



ある日のフィールド・ノートから

ハイタカの痕跡を拾う

春先に、小鳥の写真を撮って遊んでいたら、たまたまハイタカの巣を見つけました。日本に生息するハイタカの生態や行動については、他のタカと比べると、あまり多くの情報がありません。ハイタカについて、色々知りたかった私はよだれが出てきました。その後、とても不定期になってしまいましたが、繁殖つがいにストレスを与えないように、巣のあるストロブマツ植林から100m程離れた場所でハイタカの行動などを観察し始めました。

ある夏の日。久しぶりにハイタカを見に行くと、「ピーイ、ピーイ」と林の中からハイタカの幼鳥の鳴き声（私はこう聞こえます）が聞こえてきました。まだ親から餌をもらっている幼鳥たちは巣の近辺で盛んに鳴いています。私はハイタカの幼鳥の鳴き声を聞きながら、もうすぐやって来る解禁日を想像します。何の解禁日か？それはハイタカの営巣地への立ち入り解禁日です。

ハイタカはあの有名なオオタカと同じグループ、タカ科ハイタカ属に属しています。オオタカと同様に狩りを行って、鳥などの動物を捕食します。冬が厳しいからなのか、北海道で夏に見られるハイタカの多くは春に渡ってきて繁殖し、秋に暖かい地域へ渡ってしまいます。

今回のネタとして扱わせてもらったハイタカファミリーが営巣地に固執しなくなった（林への出入りを見なくなった）のはありがたい9月初旬でしたが、ハイタカの秋の渡りは一般的に10月中旬頃から見られると言われています。

そのため、この林で繁殖するハイタカファミリーにストレスを与えない時期は、10月中旬からだとは見定めました。この日を私の心の中では解禁日としています。

私は営巣地に近づくと、まず巣の下で"落としコンタクトレンズを探す人"のように、身をかがめて歩きます。大抵、繁殖利用した巣の下には何らかの痕跡が落ちています。痕跡の種類は、食痕（食べ残し）、糞、ペリット（消化できない部分を塊にして吐き出した物）、卵殻などが挙げられます。時に幼鳥の死体も落ちていることがあります。巣の下の痕跡を残さずジッパー付きのビニール袋に納めたら、次に巣を出発地点として渦を巻くような軌跡を描くように歩きます（我ながらとても異様な光景です）。

巣から離れた場所では、巣の下と比べて多くの食痕収集が期待できます。ハイタカは巣内にいる雛へ給餌を行う前に、巣の近くの安全な場所で餌の解体を行うようです。また、巣立った幼鳥が親から餌をもらって食事するのも同じような場所で行うようです。解体場所や幼鳥の食事場所は、周囲の視野が開けており、適度なスペースのある場所が好まれるようで、下草の丈が短い、全

く生えていない場所にある切り株、倒木、盛り上がった地面などで食痕をよく見ます。お気に入り?の場所では非常に多くの食痕が散乱しています。

痕跡収集が完了すると、たっぷり鳥の羽や骨やらが入った袋をザックに押し詰めて、足早に林を後にします。そして外敵（ここでは人）に発見されにくい安全な場所（車の中）で、収集した痕跡の整理を行います。

ハイタカの場合、小鳥をよく食べるようで、種類豊富な小鳥の羽や骨を拾うことが多いです。アオジ、ベニマシコ、ムクドリ、ヒバリ、イカル、アカハラ、トラツグミ、カケスなどなど。それぞれの種によって、羽で同定できたり、嘴で同定できたり、時には胸骨で同定できたりします。同定できた痕跡は乾燥させて保管し、以降の同定に役立てます。

私たちはこれらの食痕から、ハイタカの生活を想像することが出来ます。例えば餌の多くがスズメやムクドリであった場合、ハイタカが畑の近くで狩りをよく行っていることが想像できますし、森林を好む鳥、河川を好む鳥、市街地に多い鳥など種類が豊富な時は様々な環境で狩りを行っていることが想像できます。なかなか推測の域を脱することはできませんが、情報一つ一つを蓄積することで、動物の行動や生態を考える視野が広がります。痕跡収集は地味で怪しく、そして汚い作業ですが、私の乏しい想像力をサポートしてくれる大事な勉強になっています。

(北海道支社自然環境研究室 松岡和樹)

ご意見 ご質問

お待ちしております

素朴な疑問やご感想など下記のアドレスまでお寄せください。

E-mail: nl-info@chiikan.co.jp

News Letter NO.26 2005年9月

発行】.....株式会社地域環境計画

発行人.....高塚 敏
編集.....中山香代子・鈴木志保子・釣谷佳子・高岡由紀子・小笠原雅子・岡崎康代

東京本社 〒154-0015
東京都世田谷区桜新町2-22-3 NDSビル
TEL 03-5450-3700 / FAX 03-5450-3701
営業窓口：鈴木志保子・高岡由紀子
北海道支社 TEL 011-717-8001 / FAX 011-717-8021
営業窓口：中島正雄
東北支社 TEL 024-515-1105 / FAX 024-515-1106
営業窓口：浅尾勝彦
大阪支社 TEL 072-684-3182 / FAX 072-684-3184
営業窓口：中山香代子
九州支社 TEL 092-833-5270 / FAX 092-833-5271
営業窓口：井原寛人

編集後記

このNLも、遂に創刊10周年となりました。色々な社員が得意分野で登場しておりますが、不思議なのは専門内容と本人のイメージはかなり近いということです。昆虫屋は「ぜったい触覚生えてるっ!!」という（濃い）感じ、植物屋はたおやかな感じ・・・など。前号から編集に携ることになり、レイアウトに毎回四苦八苦しておりますが、つつい文章を書いた社員のイメージでページを作成してしまいます。今回なら、井上はおもちゃ箱をひっくり返したようなイメージ、松川は落ち着いたイメージです（異論があるかも?）。それぞれのページを読んでご興味を持たれた方は、何かのうちに姿を見かけたらぜひお声をかけてみて下さい。きっと誰もが、期待を裏切らないキャラクターだと思いませんか？
(東京本社・小笠原雅子)

§ 創刊10周年を記念し、アンケートを実施しています。みなさまのご協力をお願いいたします。§